江別市地域公共交通活性化協議会

平成28年7月26日設置

概　要

本市は、人口119，253人（令和4年12月1日現在）、総面積は187．38平方キロメートルで石狩平野のほぼ中央に位置し、道立自然公園野幌森林公園や千歳川、石狩川などの豊富な自然に囲まれた住環境と交通アクセスや生活利便性に優れた都市環境が調和する道央圏の中核都市である。札幌市や北広島市など3市2町1村に隣接し、札幌市へは札幌駅までJRで約20分、自動車でも中心部まで約35分と至近距離にあり、JR函館本線及び国道12号が東西に走り、道央自動車道が南北を貫きインターチェンジも2か所あるなど、道央圏における交通の要衝となっている。

公共交通については、平成30年6月に策定した「江別市地域公共交通網形成計画」及び「江別市地域公共交通再編実施計画」に基づき、交通不便地域であった市内2地区において、地元が主体となりタクシーを利用したデマンド型交通の運行を開始した。また、市内完結バス路線の再編として、一部で経路が重複し非常に非効率な運行となっていた2路線の集約や他路線での経路変更を行っている。

○地域公共交通の現況

・JR函館線（大麻駅、野幌駅、高砂駅、江別駅、豊幌駅）
・北海道中央バス㈱（4路線）
・ジェイ・アール北海道バス㈱（7路線）
・夕張鉄道㈱（5系統）
・江北地区及び豊幌地区デマンド型交通　、スクールバス

○地域公共交通の課題

・持続可能な公共交通ネットワークの維持・確保
・公共交通の利用促進
・乗務員不足の解消
・少子高齢化社会に対応した新たな技術や市民ニーズへの対応

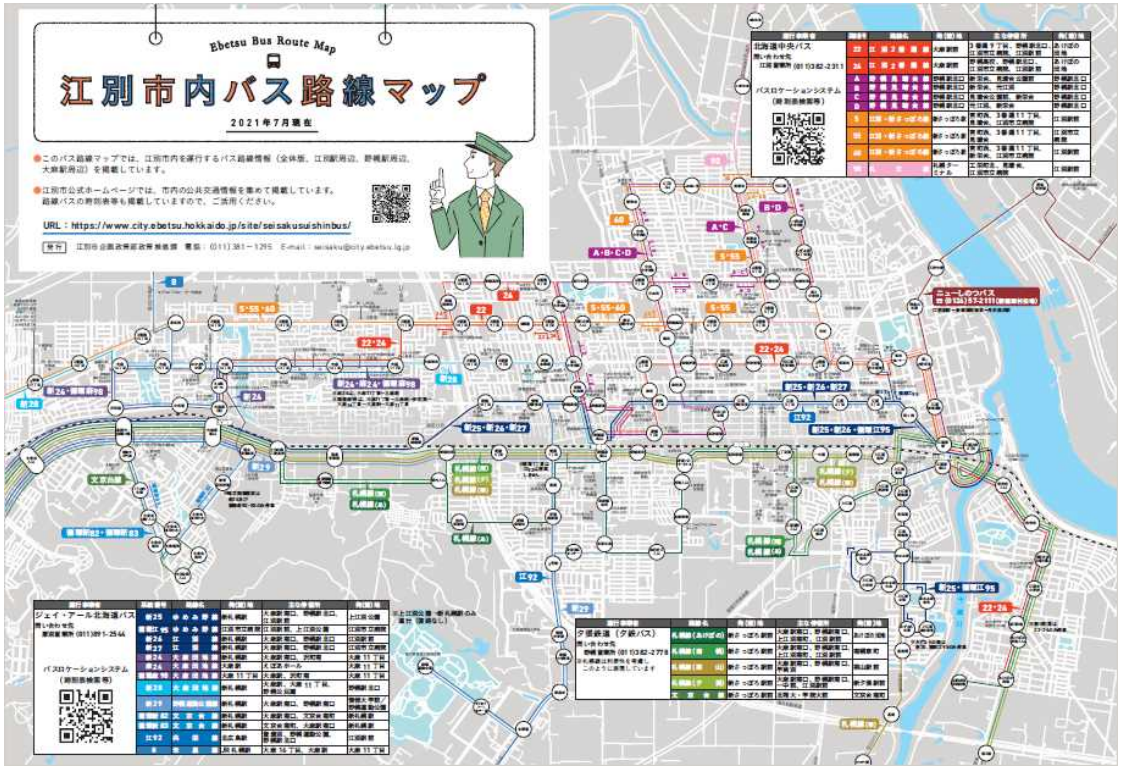
○調査の主な内容

・路線バスOD調査
・市民アンケート調査
・公共交通事業者等へのヒアリング調査
・地域公共交通計画（案）の取りまとめ

○地域公共交通活性化協議会開催状況

令和4年6月29日　第1回協議会を開催
　・主な協議事項：計画内容、策定スケジュール、各種調査等の検討・確認
令和4年12月21日　第2回協議会を開催
　・主な協議事項：各種調査結果及び課題、計画骨子（案）の検討・確認

公共交通の概要

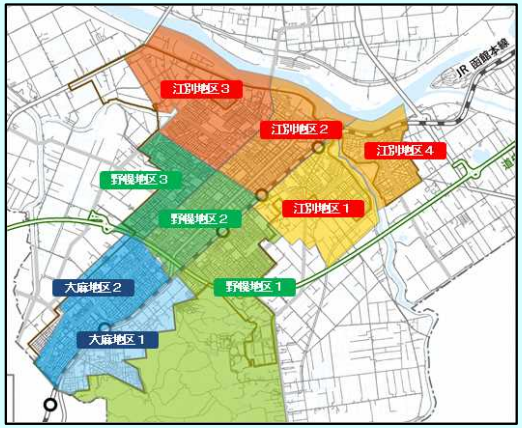


江別市地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

調査目的	現在の路線バスの利用実態の把握
調査方法	運行するバス車両に調査員が同乗し調査票を配付（OD調査の実施）
調査日程	令和4年9月11日（日）、14日（水）

▼対象エリア



江別地区1	上江別	上江別東町	上江別西町	上江別南町
	ゆめみ野	ゆめみ野東町	ゆめみ野南町	
江別地区2	1条1丁目～8条8丁目	緑町	萩ヶ丘	王子
	大川町	一番町	弥生町	高砂町
	向ヶ丘	若草町	元町	
江別地区3	牧場町	元江別	見晴台	元江別本町
	いずみ野	篠津	中島	八幡
	工栄町	対雁	角山	
江別地区4	東光町	朝日町	あけぼの町	江別太
	萌えぎ野	萌えぎ野中央	萌えぎ野東	萌えぎ野西
	美原	豊幌	豊幌華園町	豊幌美咲町
	豊幌はみんぐ町			
野幌地区1	東野幌本町	東野幌若葉町	東野幌	西野幌
	野幌東町	緑ヶ丘	あさひが丘	
野幌地区2	錦町	幸町	野幌調	野幌松並町
	野幌末広町	野幌住吉町	野幌代々木町	
野幌地区3	元野幌	野幌寿町	野幌屯田町	野幌美幸町
	新栄台	中央町		
大麻地区1	文京台東町	文京台南町	文京台緑町	文京台
大麻地区2	大麻	大麻ひかり町	大麻栄町	大麻園町
	大麻宮町	大麻元町	大麻高町	大麻桜木町
	大麻新町	大麻晴美町	大麻西町	大麻扇町
	大麻泉町	大麻沢町	大麻中町	大麻東町
	大麻南樹町	大麻北町		

▼路線別利用者数

事業者名	系統番号等	路線名	平日利用者数（人）	休日利用者数（人）
北海道中央バス	22・24	江別2番通線	568	246
	A・B・C・D	野幌見晴台線	340	147
	5・55・60	江別・新さっぽろ線	1,312	529
	90	札江線	204	—
夕張鉄道	あけぼの	札幌線	141	23
	あけぼの	札幌線（札幌大通）	—	15
	南幌	札幌代行線（札幌大通）	—	12
	南幌	札幌代行線	448	—
	栗山	札幌代行線	83	—
	夕張	新札夕線	104	—
	—	文京台線	7	0
ジェイ・アール北海道バス	新26	江別線	1,606	838
	新27	江別線	828	701
	新28	大麻団地線	889	461
	新24	大麻団地線	253	63
	循環麻98	大麻団地線	39	23
	新25	ゆめみ野線	167	—
	循環江95	ゆめみ野線	70	—
	新29	野幌運動公園線	941	442
	江92	共栄線	216	38
	8	米里線	277	37
	循環新82・83	文京台	660	495
		合計	9,153	—

▼利用状況：地区間ＯＤ

（単位：人）

乗降人数		降車地区											
		江別地区１	江別地区２	江別地区３	江別地区４	野幌地区１	野幌地区２	野幌地区３	大麻地区１	大麻地区２	札幌市	その他市外	総計
乗車地区	江別地区１	63	33		8	14	2		2		15	10	147
	江別地区２	45	85	12	58	27	209	2	72	15	104	24	653
	江別地区３		4	3			112	2			16		137
	江別地区４	12	79		9	11	37	5	1	4	3	3	164
	野幌地区１	8	19		11	202	22		69		195	14	540
	野幌地区２		218	95	35	34	131	99	154	129	260	13	1,168
	野幌地区３		25	5	2		88			15			135
	大麻地区１	2	64		1	57	143		173		905	1	1,346
	大麻地区２		15		2		155	31	4	472	277		956
	札幌市	9	101	15	6	178	274	3	924	247	1,448	15	3,220
	その他市外	14	27		3	20	15		3		8	85	175
	総計	153	670	130	135	543	1,188	142	1,402	882	3,231	165	8,641

1～10　11-100　101～500　501～

▼調査結果

- 江別市内を運行する路線バスの平日1日の利用者数は、9,153人。
- 江別・新さっぽろ線を除く、OD調査を実施したバス路線の利用者数は、8,641人。
- このうち、江別市内で乗降が完結する利用は、39.4%（3,406人）。
- 「野幌地区」と「大麻地区」の利用が多い。
- 江別市と札幌市間での利用は40.9%（3,532人）。特に「大麻地区1」と「札幌市」間の利用が多い。
- 停留所別の利用状況では、「国道12号沿線」や「2番通沿線」の利用が多い。
- 市街化区域の中でも、3番通沿線、4番通沿線、上江別方面は、利用が少ない。

江別市地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

調査目的	公共交通の利用実態や現状の課題、整備ニーズ、今後の利用意向などを把握
調査方法	市内3,000世帯を対象にアンケート調査を実施（返信用封筒、WEB回答）
調査日程	令和4年8月25日（木）～令和4年9月30日（金）まで　→　回収率31.4%

▼調査結果（回答者の属性や意識）

●スマートフォンの保有率は、64歳以下で保有率が9割以上。年齢に応じて保有率は低下、80歳～84歳で保有率が約5割。
●運転免許の保有状況は、各地区で8割程度。大麻地区は約7割（他地区と比べてやや低い）。
●自家用車の利用頻度は、各地区とも半数以上が「週に3～4日」以上利用、「週に1～2日」を含めると8割以上が利用。
●免許返納後の移動手段は、約7割強が「路線バス」と回答。また、約6割強が「JR」との回答。
●自家用車での送迎状況は、各地区とも、約半数で送迎の実態があると回答。
●一方で、送迎の負担は、約8割が「全く負担は感じない」、「あまり負担は感じない」との回答。

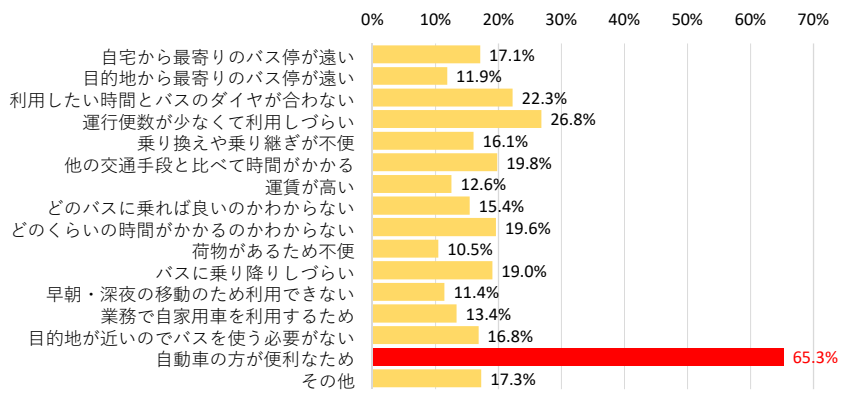
▼路線バスを利用して行きたい場所

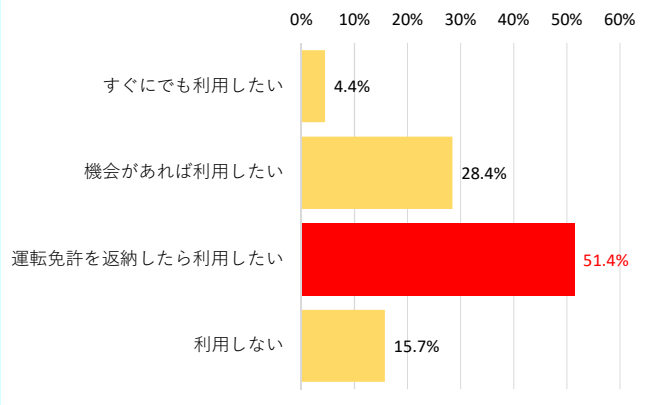
行きたい場所（全体:n=223）	回答数	回答割合
蔦屋書店	60	26.9%
江別市立病院	31	13.9%
イオン江別店	28	12.6%
JR野幌駅	25	11.2%
江別市役所	21	9.4%

●現在、路線バスが運行していない施設では、「蔦屋書店」への要望が多い。
●令和5年3月に開業予定の「北広島ボールパーク」へのアクセスに対する要望も寄せられている。

▼調査結果（バスの利用状況／利用していない理由）

●路線バスの利用頻度は、夏期、冬期ともに「週に5日以上」の割合が1割未満。
●大麻地区1では、「月に1～2日」や「数か月に1～2日」など利用頻度は高くないものの、路線バスを利用する方の割合が高い。
●路線バスを利用していない理由は、「自動車の方が便利なため」の割合が高く、「運転免許を返納したら利用したい」との意向。





江別市地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

＜計画策定のポイント＞

◎多くの利用者が札幌との往来で利用されているため、東西への移動は今後も重要となる。
◎市内では、メインの利用者層である、通勤・通学需要への対応が重要となる。
◎利用の少ない曜日、時間帯について、運行の効率化や改善が見込まれる路線がある。
◎現在のバス路線のネットワークは、市民の移動状況に概ね合致しているものと考えられることから、基本的な交通体系を維持すべきと考えられる。
◎新たなニーズや観光需要に対応するためには、運行経路の一部見直しやバス・バス間を含め、複数交通手段の乗り継ぎの改善など利便性向上も必要と思われる。
◎現在の路線バスのメインの利用者層である、通勤・通学の需要を維持し、利用者数の増加を図るためには、夕方以降の利便性の向上が必要と思われる。
◎冬期のバスの遅れに対しては、仕方のないものとして一定の理解を示す意見が見られたことから、引き続き除排雪体制を確保しつつ、遅れることを前提とした、遅れや運休に関する情報発信や待合環境の改善など、利用者に寄り添った対策が重要と思われる。

各種調査結果及び計画策定のポイント等を踏まえ、2～3月に開催される協議会において、下記の基本方針や具体的な施策内容について協議を進める。3月末までに原案を策定し、パブリックコメントを経て、令和5年6月に計画を取りまとめる予定。

基本方針（案）	施策イメージ（案）
基本方針1 持続可能な公共交通　ネットワークの構築に向けた利便性・効率性の向上	■バスネットワークの改善及び交通結節機能の強化
基本方針2 誰もが安心・便利に利用できる公共交通の環境づくり	■基本情報の整理及び提供 ■関係機関等との連携推進
基本方針3 公共交通を支える市民意識の醸造	■モビリティ・マネジメントの推進
基本方針4 公共交通を支える仕組みづくり	■補助制度の検証

江別市地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

・事業は、計画どおり実施されている。
・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
・今後、地域公共交通計画策定の際は、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。